

□議員名：大井淳一郎

1 SWOT 分析について

論点	本市の強みは何か。
回答	市民活動が盛んであること、焼野海岸など豊かな自然環境や江汐公園など大規模な都市公園があること、高速交通網の便利さ、理科系の大学として山口東京理科大学があることが挙げられる。

論点	本市の弱みは何か。
回答	少子化の進行と人口の減少、あるいは若者の市外への流出が挙げられる。その他、公共交通機関が不便であることや中心市街地が明瞭でないことが指摘されている。

論点	本市を取り巻く環境で機会となり得るものは何か。
回答	安心安全意識や地産地消の高まり、多様なライフスタイルを求めるUJI ターン思考の高まりなどが挙げられる。

論点	本市を取り巻く環境で脅威となり得るものは何か。
回答	少子高齢人口減少社会の到来、高齢者増加による社会保障費の増大が挙げられる。その他、地方都市における中心市街地の衰退、地方自治体の厳しい財政状況などがある。

論点	強みを生かすためにどのような施策をとっていくのか。
回答	本市の強みである「盛んな市民活動」を生かすために「安心安全意識の高まり」という追い風（機会）を受けて、自主防災組織の育成や防災体制の充実に取り組んでいる。

論点	弱みを克服するためにどのような施策をとっていくのか。
回答	本市の弱みである「少子化の進行、人口の減少」を克服するために「UJI ターン思考の高まり」という追い風（機会）を受けて、UJI ターン推進事業や転入促進事業に取り組んでいる。

2 行政委員会について

論点	以前、行政委員会委員に対する日額報酬制の導入を検討していたが、その後どうなったのか。
回答	平成23年度内に審議会を開催して具体的に審議する予定であったが、諮問を一旦見送った。今のところ日額報酬制を検討する予定はないが、長年業務実績がない公平委員会委員については平成25年度に審議会を開催し、報酬の見直しについて検討したい。

論点	機関を簡素化して経費を節約し、効率的な行政運営を確保するために公平委員会を他の自治体と共同設置する考えはあるか。
回答	長年にわたり案件がない状況であるが、このことをもって単独設置の必要性を判断するわけではない。今後、事務の共同処理を検討する場合は経費面を含めメリット、デメリットを洗い出す中で総合的に判断する必要があると考える。

論点	行政委員会委員は中立性、専門性の見地から公募になじまないものもある。今後も現在のような公募を続けていくのか。
回答	意欲ある有能な人材を発掘、活用するために原則公募としているが、委員構成の中に必ず公募委員を含めるものではない。適任者がいなければ採用しないし、現行委員を継続して採用することもある。

論点	現在、教育委員の中に校長経験者など学校関係者が含まれているか。
回答	5名の教育委員がいるが、小中学校の先生の経験者はいない。

論点	教育委員会がしっかり運営されるために、5名のうち1名ぐらいは現場をよく知る学校関係者から選ぶべきではないか。
回答	それも1つの考え方だが、教育長は月の半分以上は現場（小学校、中学校）に出ている。

資料

クロス SWOT 分析

		内部環境	
		強み	弱み
外部環境	機会	成長戦略	改善戦略
	脅威	回避戦略	撤退戦略

↑

改革戦略

本市における日額制及び公募の状況

	日額 or 月額	公募
教育委員会	月額	○
農業委員会	月額	×
公平委員会	月額	×
選挙管理委員会	月額	×
固定資産評価審査委員会	日額	○
非常勤の監査委員	月額	×